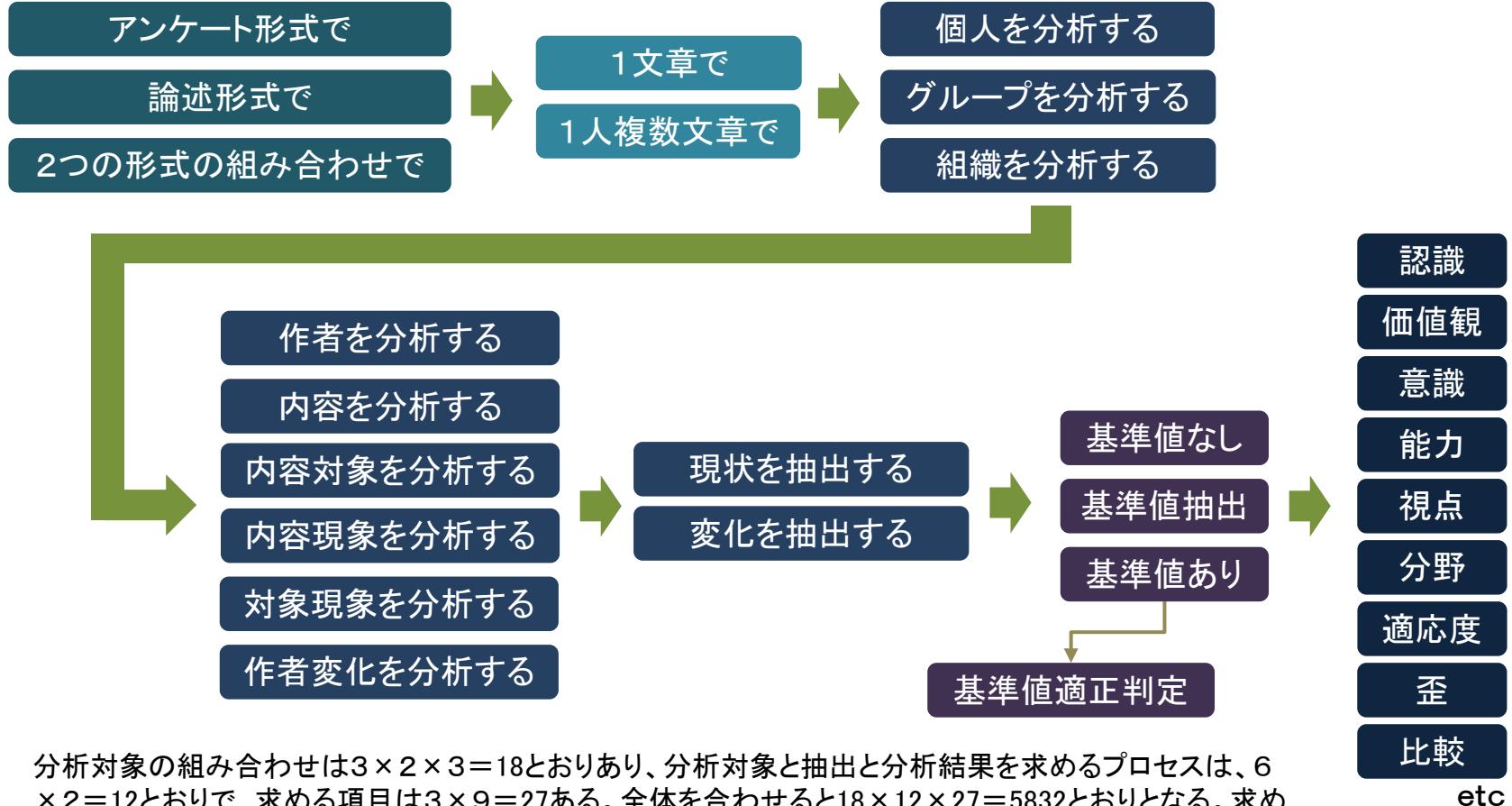


文字データ分析対象と分類

分析目的は、現状認識と確認であり、意思決定の材料抽出が目的となるはずである。



分析対象の組み合わせは $3 \times 2 \times 3 = 18$ とおりあり、分析対象と抽出と分析結果を求めるプロセスは、 $6 \times 2 = 12$ とおりで、求める項目は $3 \times 9 = 27$ ある。全体を合わせると $18 \times 12 \times 27 = 5832$ とおりとなる。求める項目を2つ、3つと組み合わせを複合化させると限りなくあると言ってもよいだろう。
分析を求める目的に対して絞り込みも、そのための材料分析が必要となる。